

ESD・SDGs

全国の学校関係者必見!!

ESDのカリキュラム・マネジメントで「持続可能な社会の創り手」を育てる

持続可能な世界、つまりSDGsを実現するためには教育現場から変わらなければならない。そのための人材育成に向けて、学校教育はどのように変化してきているのか。持続可能な社会の創り手を育成するESDの推進活動に取り組む手島利夫さんに、ESDの動向と学校での取り組みについて伺った。

ESDの動向について

皆様、ESDという言葉をご存じでしょうか。これと似た言葉でSDGsがあります。SDGsは2030年までに持続可能な世界を実現するための目標(Sustainable Development Goals)です。これらの目標を達成するためには、その場限りの取り組みとならないように学びが必要となります。つまり、持続可能な社会の創り手を育てるための教育、すなわちESD(Education for Sustainable Development)なのです。近年、企業活動においてもSDGsの取り組みが盛んになってきているように、学校教育でもその重要性が認識されてきています。これまでは知識偏重で学力向上に重きを置

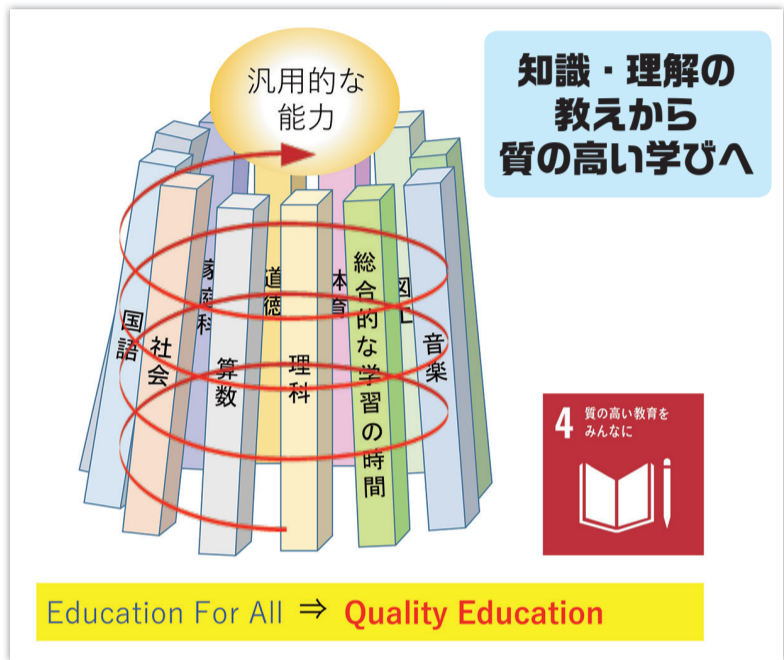


ESD・SDGs推進研究室 手島 利夫 (てしま としお)

2005年以来、江東区立東雲小学校長、江東区立八名川小学校長を歴任し、ユネスコスクールとしてESDカレンダーの開発・ESDの推進に努め、両校ともにユネスコスクール・ESD大賞を受賞。2007年～2018年まで、内閣府ESD円卓会議委員等を務め、ESDの普及・拡大に努める。2018年退職し、「ESD・SDGsを推進する手島利夫の研究室」を開設。

いた教育が行われてきました。が、今やスマートフォン台あれば何でも調べられる時代です。知識・理解に優れた人が、今後の社会でも役立つかどうかは別問題です。世界の課題に向き合い、より良い社会を目指して主体的に行動を起こせる「持続可能な社会の創り手」を育成するESDの必要性が高まっています。

では、どのようにすれば「持続可能な社会の創り手」を育成できるのでしょうか。世界



(久喜市教育委員会作成の資料を元に手島が構成)

ESDへの取り組みについて

ユネスコスクールである八名川小学校の取り組みをご紹介します。八名川小学校では、日頃の学びをSDGsと関連させて、さまざまなテーマでプレゼンテーションする「八名川まつり」を毎年1月に開催してきました。たとえば、国語でSDGsについて学んだ

ら、未来について自分の考えをもち始めます。社会科で戦争中の人々の思いを学べば、今の平和をどう活かして生きるか視野が広がります。総合的な学習で職業選択に思いを馳せるときには、さらに、未来に向けて何を学び、どう生きるか模索が始まります。こうした教科横断的な学びの連続の中で考えが深まり、中間発表会では個人の発表に仲間からの問いかけや助言も集まり、対話が広がります。これを踏まえ、八名川まつりで一人ひとりが思いを込めた「自分の生き方」を語るのです。

八名川まつりでは全校児童がプレゼンをし合い、聞き合い、互いに学び合います。1年生は、「2年生はすごいな、自分も頑張ろう!」と憧れを抱き、「来年になったらもつと良い提案をしよう、あんな6年生になりたいな!」と憧れが生まれます。学年縦断的な学びの機会が児童のアイデアの創出や意欲へとつながるのです。

ESDにおける課題と展望

ESD推進の課題は、主体的な学習過程と評価の見直しです。教師に示された課題に取り組むのではなく、問題は自分たちで見つけられるものです。問題を見つけれない人間は、他人の言うなりに生きるしかないからです。評価では、「未来社会を生きる力」という視点からの自己評価こそ大事です。「知識や理解の程度」「作品の出来栄」を教師に評価してもらって喜んでいくような中学生に、未来を生きる力など育つはずがありません。事実に基づく「思考力」や「判断力」、互いに聞き



専修大学3年 竹村結 / 東京理科大学3年 伊藤陽萌 / 学習院女子大学2年 小川莉実 / 國學院大学3年 島田大輝 / 中央学院大学4年 田根楓人 / 東海大学4年 大塚美咲 / 立教大学4年 須藤寛斗

(専修大学3年 竹村結)

合い伝え合うための「表現力」や「主体的な実践力」が重要となります。展望については、全国の学校でESDの理念に基づいた教育を展開することです。2017年に学習指導要領が公示され、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と段階的に開始されました。中高でも教科横断的なカリキュラム・マネジメントの取り組みが進められています。ICTスキルを身に付けることも大切ですが、何より大事なことは、世界に目を向け「ありたい未来」と「現実の課題」とのギャップに気付く、その問題解決にチャレンジしていく主体性です。国や地方自治体が学校を応援・支援する取り組みも増えていきます。「持続可能な社会の創り手」として自分たちで育つ覚悟を固めましょう。

中高生へのメッセージ

大人の言うことは必ずしも成功や正解につながるとは限りません。常に意識してほしいのは自分たちで学び、考え、判断することです。世界に目を向け、世の中を良くしていくには何ができるか議論を重ね、世界を大きく変える人になりましょう。



自分で考え、行動できる力を引き出すための活動です

ダヴィンチマスターズ

子どもたちが主体的に「学びを楽しむ」ためのヒントがここに▶



SDGs実現のために、ESDが成功の鍵。 「主体性」と「行動力」を身につけ、 一人一人が未来の創り手に!



SDGsを実現させるために、昨今注目されているのがESDだ。いわゆる「持続可能な開発のための教育」である。これは、持続可能な社会の創り手を育むため、社会の様々な課題を主体的に捉え、その解決に向けて考え、行動する力を身に付けることを目指すものである。今回は、ESDを推進するユネスコ協力官の新免さんに、その熱い思いを伺った。

ESDは、持続可能な社会の実現のために必要不可欠

ここ数年で、「SDGs」という言葉は多く見聞きするようになったと思います。それでは「ESD」についてはいかがでしょうか。

ESDとは「Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)」を示す、英単語の頭文字です。平和や気候変動、災害など、持続可能な社会を構築していくために、地球規模で向き合う必要がある様々な課題を、自分ごととして捉え、その解決に向けて自分が何をできるかを考え、行動する力を身に付けることを目的とした教育です。よりよい未来を創るために、自らの行動を変えていく、そのようなことも目指しています。

自分の住んでいる地域や国、地球上の多くの課題について考えたり、お互いを尊重し、一緒に世の中を良くしていくこととしていくことが大切について、考えている方がおられるかもしれません。こういったことを考えていくことが、SDGsの実現につながっていくと、捉えることができます。

ESDを世界で初めて提唱したのは、実は日本です。ESDは、SDGsが国連で採択されるよりも、10年以上も前である、2002年に提唱されました。その後ESDは、教育・文化・科学を通じて国際平和を目指すといった理念を持つ、「ユネスコ」という国際機関が主導し、現在、世界中に広まっています。

2019年、「ESD 2030」という新たな国際的な枠組みが、国連総会において採択されました。これは、SDGsが示す17の目標、そのどれを実現する際にも、ESDが成功の鍵となる、といったものです。

例えば、気候変動による大規模災害が国内外の様々な地域で発生しております。それに加え、新型コロナウイルスでみなさんも含めて、世界中の人々の生活が、これまでと大きく変わりました。また、ウクライナで起こっていることなど、国際社会の平和を脅かす状況が生じております。

このような時代だからこそ、自分の住んでいる地域や国、地球上の多くの課題について考えたり、お互いを尊重し、一緒に世の中を良くしていくこととしていくことが大切について、考えている方がおられるかもしれません。こういったことを考えていくことが、SDGsの実現につながっていくと、捉えることができます。

ESDを世界で初めて提唱したのは、実は日本です。ESDは、SDGsが国連で採択されるよりも、10年以上も前である、2002年に提唱されました。その後ESDは、教育・文化・科学を通じて国際平和を目指すといった理念を持つ、「ユネスコ」という国際機関が主導し、現在、世界中に広まっています。

例えば、「海洋プラスチックごみの削減を目指す」という地球規模の課題に対して、自分たちは何ができるかを考えるといった取り組みを、海から100キロ以上離れた山間部で行っている学校があります。実際に近隣の海に行つてゴミ拾いをする、その流れついたものだったり、川を下つて内陸部から集まってきたゴミ拾いを契機として、海外とつながりや、地元の川や山を毎日大切にすることが海岸のゴミの削減にも深く結びついていることを、学校の先生や地域の方の協力を得ながら学んで

工夫の仕方は無限大

ESDを世界で初めて提唱したのは、実は日本です。ESDは、SDGsが国連で採択されるよりも、10年以上も前である、2002年に提唱されました。その後ESDは、教育・文化・科学を通じて国際平和を目指すといった理念を持つ、「ユネスコ」という国際機関が主導し、現在、世界中に広まっています。

ESDを世界で初めて提唱したのは、実は日本です。ESDは、SDGsが国連で採択されるよりも、10年以上も前である、2002年に提唱されました。その後ESDは、教育・文化・科学を通じて国際平和を目指すといった理念を持つ、「ユネスコ」という国際機関が主導し、現在、世界中に広まっています。



持続可能な開発のための教育(ESD)

- 持続可能な社会の創り手を育むため、
- ①現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、
- ②その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、
- ③新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育。
- 国際理解、環境、文化多様性、人権、平和等の個別分野を、持続可能な開発の観点から統合させ、分野横断的に行われるもの。

ESDに関する最近の国際的な動き (SDGsとの関係など)

2002年:日本が初めてESDを提唱。
→ 2005年以降、国際連合の専門機関であるユネスコ(国際連合教育科学文化機関)を主導機関として、ESDは国際的に推進。

2014年:ESD世界会議を国内(愛知県・名古屋市/岡山市)で開催。
2015年:国連においてSDGsが採択。
2019年:「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが、国連総会において採択。
→ 持続可能な開発のための教育(ESD)は…(中略)…質の高い教育に関する持続可能な開発目標(SDG4)に不可欠な要素であり、その他全ての持続可能な開発目標(全てのSDGs)の成功の鍵である。

2021年:ESD世界会議をキックオフとして「ESD for 2030」が本格始動。



文部科学省 国際統括官付 ユネスコ協力官(併) 大臣官房国際課 国際協力室長補佐
新免 寛啓 (しんめん ひろあき)

プロフィール ●2007年文部科学省に入省。教育・科学・スポーツ・文化に関する業務を歴任するとともに、2011年から2年間、内閣官房及び復興庁において震災復興業務に従事。2019年から北海道教育委員会に出向。教育政策課長を経て、2021年4月から、文部科学省国際統括官付ユネスコ協力官(併) 大臣官房国際課国際協力室長補佐。

ESDを世界で初めて提唱したのは、実は日本です。ESDは、SDGsが国連で採択されるよりも、10年以上も前である、2002年に提唱されました。その後ESDは、教育・文化・科学を通じて国際平和を目指すといった理念を持つ、「ユネスコ」という国際機関が主導し、現在、世界中に広まっています。



ESDを世界で初めて提唱したのは、実は日本です。ESDは、SDGsが国連で採択されるよりも、10年以上も前である、2002年に提唱されました。その後ESDは、教育・文化・科学を通じて国際平和を目指すといった理念を持つ、「ユネスコ」という国際機関が主導し、現在、世界中に広まっています。

小学生へのメッセージ



東洋大学3年 濱穂乃香/日本女子大学4年 神田理苑
/津田塾大学4年 大川知/立教大学4年 須藤寛斗

国内のユネスコ関係情報サイト

◆ユネスコ未来共創プラットフォームポータルサイト

みなさんは「ユネスコ」といえば、どのようなものを思い浮かべますでしょうか?「世界文化遺産」や「世界自然遺産」といったものがあると思いますが、さきほどお伝えしましたとおり、ユネスコでは「ESD」の推進をはじめ、教育分野、そして科学や文化の分野において、持続可能な社会を目指し、様々な取り組みを実施、推進しています。

世界遺産は勿論のこと、他にも例えば、「ユネスコスクール」「ユネスコ創造都市」「ユネスコエコパーク」「ユネスコ世界ジオパーク」などがあります。また、全国各地で、ユネスコの理念をもとに活動している「ユネスコ協会」といった民間団体もあります。これらを日本地図上に示したポータルサイトがあります。



◆ユネスコスクールガイドブック——ESDの活動を通じて創る未来

ESDに関連が深いものとして、「ユネスコスクール」の紹介をいたします。「ユネスコスクール」とは、平和な社会の構築を目指すユネスコの理念の実現を目的とした学校です。現在、世界中に1万校以上、そのうち日本国内の加盟校数は1,120校(2019年11月現在)と、世界最多です。

日本では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付けております。ESDを行う際の参考となる、実践事例を多数掲載したガイドブックがあります。

